

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1273300317		
法人名	株式会社 ユニマットそよ風		
事業所名	四街道ケアセンターそよ風		
所在地	〒284-0012 千葉県四街道市物井1596-4		
自己評価作成日	平成26年2月28日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生1107-7		
訪問調査日	平成26年3月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

GHでは、「安全で楽しく家庭的」というスローガンを掲げており、入居者一人ひとりの気持ちに寄り添う支援を行っている。その中で可能な限りそれぞれの自己実現を目指している。また、個々の家族の面会や運営推進会議等によるコミュニケーションを通して、入居者に関する情報共有、ケアへの要望を伺い、方向性、想いを統一できるようにしている。入居者や家族の要望を取り入れつつ、外出や外食の機会を設け、入居者の健康維持につながるよう、日常的に体操や廊下歩行を継続して実施している。また、毎月行事を計画しご家族様にもご参加して頂いている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、常に利用者を視点に置いた利用者本位のサービスの維持向上に努めている。運営推進会議を活かした取り組み、地域交流、地域貢献、同業者との交流などを通して利用者の暮らしを支えている。設立から10年以上を経て利用者の平均年齢、介護度も上がってきたことにより、重度化やターミナルケアについても個別に最良の方法を考えて取り組んでいる。近隣の散歩などが難しくなってきたことから、レクリエーションに外出を多く取り入れ、初詣、動物園、イルミネーションを見に行ったりホテルでの外食や季節の花見など利用者が外に出る機会を作っている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	k	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	オープンより、会社としての理念の他に、「安全で楽しく家庭的」というGHだけの独自スローガンを掲げています。これを実現する為に毎月ミーティングで話し合っています。	毎月の全体会議では理念を読んで確認している。グループホームでも独自に「安全で楽しく家庭的」というスローガを作り、具体化するために毎月の目標(環境の整備・模様替えなど)を決め、実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、自治会から夏祭りのお誘い近隣の小学校、幼稚園から招待がある等、地域の一員として認識され交流を図っております。事業所も学校生徒の社会科見学や課外授業を受け入れ協力しています。	地域の夏祭りや小学校行事には、利用者全員で出席している。この他ホームを知ってもらうために文化センターの催しや障がい者の作業所などの訪問もしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや見学、教育機関の実習生受け入れを積極的に行っております。定期的に救命講習を実施し、地域の方々にも呼びかけています。管理者が認知症サポーター養成講座講師資格を取得した為、今後も講座を開講していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果の報告、運営推進会議にて現状報告や意見交換、質疑応答など行い、後のサービスに反映できるようにしています。要点を絞り、会議をするよう心掛けています。訪問診療導入後、連携を図りながら実践しています。	市の担当課職員、家族が参加して実施している。事故報告などもされており、家族からも意見や要望が出ている。最近では重度化に伴う看取りの体制作りのための検討を3回連続で行っている。	充実した会議が運営されているが、地域からの参加がない。利用者が地域で普通に暮らしていくためにも、地域住民の参加を得て、より多角的な視野でサービスの向上につながるような会議になることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各市町村への挨拶や各事業所の研修会にも積極的に参加しています。また運営推進会議にも市の担当者に参加して頂き、意見交換を行っています。地域包括主催の研修会にも参加しています。	相談があれば直接出向いて話し合い、事業所のパンフレットなども窓口にも置かせてもらっている。また、地域包括支援センターの依頼でホーム職員が高齢者の体操を指導している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外主催の研修に参加し、身体拘束廃止委員会を設置しています。マニュアルやDSと共同の会議等で正しい理解ができるよう学び、ケアに取り組んでいます。ペランダの出入り口を開錠し、改善に向け、毎月検討会議も実施。	併設のデイサービスと合同で身体拘束廃止委員会を設置し、学ぶ機会を得ている。毎月行っている全体会議で身体拘束についての検討会を行い、職員全体で共有できるようにしている。家族から拘束の要望があっても、ホームの考え方や代替えの工夫を説明している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者は身体拘束廃止研修を受講しており、高齢者虐待防止関連法や身体拘束についてGH会議や全体会議で取り上げ、職員全体で学んでいます。又、マニュアルも作成しています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	この制度を利用される入居者もおり、スタッフ全体で制度の理解を深められるよう会議等にて情報を共有や勉強会などを開き学ぶ機会を増やしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には契約書を全て読み上げ、説明をしてから同意を得ています。又、本人や家族からの質問、改定等の際には書面や口頭にて納得頂けるまで詳しく説明を行っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議等にて入居者や家族の意見を吸い上げています。家族等の面会カードには意見・要望記入欄を設置。契約時には苦情意見窓口として行政機関の連絡先の記載もしており、家族に伝えています。	運営推進会議には家族の出席が多く、運営に関する意見や要望も出ており、ホームや法人は反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	GH会議や全体会議、または個別等、職員の意見や提案を聞いています。運営管理からのみではなく、意見交換が必要な場合はその都度機会と時間を設け、職員の意見も取り入れ反映させています。	管理者は、全体会議以外にも個々に声をかけ、いつでも話せる環境づくりに留意している。全職員に対する個人面談を定期的に行い、業務改善についての意見・要望などを聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は個人面談を実施し、ベースアップや職員個々の悩み、課題を把握し、解決に努めています。又、日頃より小まめに時間をつくり会話や交流を図るなど、職場環境の充実に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人職員には一定期間、管理者や経験豊富な職員が個別指導に当たって育成しています。毎月の勉強会や随時内外研修に参加し、得た情報を現場スタッフに伝えスキルアップを図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所との交流、訪問、情報交換、合同勉強会等の実施を毎月行っています。又、市内DSや居宅への訪問活動を行ったりと幅を広げ、交流を図っています。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族や担当ケアマネとの情報交換、入居前のホーム見学、自宅訪問等行い、本人と良く話して聞き取りを実施、安心した関係、環境作りに努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者同様に家族の困っている事や希望に耳を傾け、安心して頂けるよう説明や協力体制、信頼関係作りに努めています。又、入居前にケアプランを作成し、ケアへの同意を頂いています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込みの際に迅速な対応が必要と判断した場合、適宜他サービス利用のアドバイスや進め方等伝えるようにしています。又、入居前には職員間で会議を行ない情報共有を行っています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活の中で入居者、職員の枠に囚われない心身の交流を大切にしています。生活の豆知識、家事や昔ならわの知恵等を通して学び、支え合うことで関係を深めています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	年2回の家族会を設け、交流を促進し、行事や外出の際にはお知らせし参加等、足を運んで頂く機会を増やしています。面会時の近況報告等、家族の意見を大切に、また家族と入居者だけゆっくりと過ごされる場所を作っています。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族から特に禁止がない場合、訪問者は歓迎しています。家族の他、親戚や友人の方も定期的に訪問されており、歓迎しています。本人が訪問者を思い出せない時には同席する等し、支援しています。	家族が遠方に住んでいたたりする場合は、兄弟などに声をかけて行事に参加してもらうなど、馴染みの人との関係継続に配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の会話にはさりげなく関わりを持ち、他の入居者が孤立しないよう配慮しています。レクや行事の参加、日常生活の中でお互いを尊重した信頼関係が築けるよう支援に努めています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院先や医療系介護施設に転居された入居者や家族共に関わりを持っています。また、今後の方針について電話や話す機会を持つ等しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中での関わり合いから、入居者それぞれの意向、希望の把握に努め、なるべく添えるよう支援しています。意思疎通が困難な方には、以前の生活歴や家族に相談し、検討しています。	職員は利用者と一緒にタオルをたたんだり、入浴時などゆっくり話ができる時に希望要望などを聞くようにしている。また、コミュニケーションが難しい人の場合は家族から聞くこともある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前後における本人、家族からの聞き取り、日常会話等からも把握に努めています。又、これまでの担当ケアマネ等とも交流し、個人情報に配慮しながら情報交換に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを理解し、総合的に把握しています。会話や行事等、些細な変化も捉え気付きに努めています。変化時は申し送り、様子観察継続、個別ケアの取り組みを重視し情報共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族の思いや意見、希望を聞き、アセスメント、職員意見交換、担当者会議にて介護計画に反映、適切な取り組みか毎月モニタリング、評価を実施しています。大きな状況変化時にも情報交換、見直しを行っています。	日常の関わりで得た利用者の希望や、面会時に聞き取った家族の意向をもとにアセスメントを行い、介護支援専門員、管理者、リーダー、現場の職員で介護計画書を作成している。定期的なモニタリングで評価をし、見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体状況や生活の様子、日常と異なる言動等、個別ケース記録として記録しています。ファイリングし、いつでも職員が確認できるようにしており、情報共有の徹底を図っています。ユニットごとの申し送りノートを作り職員全員が確認、把握しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問診療や理美容、歯科サービス、リハビリを利用しているが希望によって近隣のサービスを利用しています。併設デイサービスとの連携で共に行事、レクリエーションを楽しんだり柔軟な支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣小学校からの児童訪問や行事招待、幼稚園との交流、自治会主催の地域行事、お祭りへの参加等を通して地域交流を図り、協力しながら支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時同意の上、入居者、家族との連携を取り、協力病院とも良い関係を築いています。希望の病院がある場合、そちらを優先しています。訪問診療導入後、連携も安定しており、適切な医療を受けられるよう支援しています。	契約時にホームの協力医をかかりつけ医としており、週1回の訪問診療で健康管理をしている。専門医については家族が対応してこれまでのかかりつけ医に通院しているが、ホームで支援することも多い。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職はセンター内看護師と連携を図り、日常の変化を捉え、健康管理や医療的な相談をしながら支援しています。又、訪問診療導入により、さらに専門の適切な受診、看護を受けられるよう充実させています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	見舞いに行った際に医師や看護師等と情報交換、相談をして連携を図っています。又、定期受診等にて交流を図り良い関係を築いています。早期退院を目指した医師からの説明の際には、なるべく家族に同席して頂き、職員と一緒に説明を受けることでより良い支援につなげています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、家族や協力病院との面談や話し合いを十分に行い、それぞれが納得できる方針を打ち出しています。また頻繁な連絡と密な関係を築き、相談の上、医師、事業所看護師等との連携で一番良いと思われる支援をしています。	ホームは家族が希望した場合、看取りを行う方針である。その時はホームでできること、できないことを説明し、医師や家族、職員と連携して支援している。過去に4人看取った経験がある	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故の際、職員は緊急マニュアルに沿って対応しています。又、会議等を通して対応方法の確認、実践力を身に付けられるよう勉強会を開いています。救命救急講習も職員順番に受講しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	職員火災対応として年に2回の避難訓練にて消火器訓練、指導を受けています。消防署立会いのもと、避難訓練をセンター全体で行い入居者も参加しています。近隣住民に避難訓練のお知らせをしていますが、合同訓練には至っておりません。	年2回、消防署立ち合いのもと、消火、通報、避難訓練を併設のデイサービスと合同で行っている。訓練後は職員で反省点を話し合い、次回の訓練に活かすようにしている。	災害時、特に夜間などは地域の協力が欠かせないと思われる。地域との協力体制構築に向けて働きかけていくことが期待される。

【評価機関】

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	記録等は個人情報保護法に則り、取り扱っています。日常の中で本人の尊厳を損なう情報は会話にしないなどの配慮をし、意思を尊重し接しています。	職員は利用者の自尊心に配慮し、一人ひとりに合った言葉かけに努めている。また、利用者の個人情報の管理は徹底しており、鍵のかかる書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家事やしたいことなど、自分の好きなこと得意なことを選択し実施できるよう働きかけています。安全確保、行動の自由を制限しない言葉かけ等、入居者のペースにて過ごし、自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側の都合に無理に合わせるのではなく、一人ひとりの生活リズムやペースを大切に、できるだけ入居者の思いや希望に沿った支援を心掛けています。業務優先にならないよう職員同士、注意しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時の着替え等、意向や相談にのりながら季節に応じた選択ができるよう支援しています。毎月理美容によるヘアカット等の機会を設け、個々のおしゃれを楽しんで頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日一人ひとりの力に合わせ、調理、盛り付け、下膳等に関わって頂いています。誕生日や季節行事等には本人の食べたいもの、好きなものを事前に伺い用意する等、希望をできるだけ取り入れるようにしています。	利用者は盛り付けや下膳など、できることで参加している。時には外食を楽しむこともある。訪問当日は各テーブルで鍋を囲み、会話しながらの楽しそうな食事風景が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	基本的に毎日の食事は栄養士によるバランスの取れた献立をもとに提供しています。食事、水分チェック表により一人ひとりの状態を把握し、支援しています。又、健康管理表で総体的に確認もしています。		
42		○口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨き等を行っています。本人の力を活かし、声かけや介助を行って清潔を保持しています。必要に応じて訪問歯科利用、定期受診を実施し、義歯着用者は毎日の義歯洗浄剤での支援を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用いて排泄パターンを把握し、一人ひとりの習慣に合わせて声かけや誘導を行っています。又、自尊心を傷つけないよう心掛け、支援しています。	ホームは座位が取れる利用者にはできる限りトイレでの排泄を支援するため、健康管理記録をもとに定時の声かけで誘導を行っている。また、日中と夜間でオムツの形態を変えるなど一人ひとりに合わせて対応している。便秘解消に寒天ゼリーやオリゴ糖など薬以外の工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を用いて排泄リズムの把握に努め、コントロールが必要な場合は医師に相談、指示のもと支援しています。毎日の体操や朝食に牛乳を飲んで頂くなど自然排便を促しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂は毎日沸かしており入浴の希望を伺い、体調を考慮しながら安心して入浴できるよう声かけや対応を工夫しています。1階の大浴場は天然温泉で、入居者も利用しており温泉気分を楽しんで頂くこともあります。	入浴は利用者の希望に沿って支援している。季節のゆず湯や菖蒲湯、入浴剤などを入れ、楽しい入浴になるよう支援している。入浴を拒む場合には声かけを工夫したり、気分を変えるためデイサービスの大きな風呂に誘導することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は特に決めておらず、状況に応じて一人ひとりの生活習慣、体調を尊重して休んで頂いています。体操や散歩、日光浴等行い、個々の生活リズムを作り安眠策を取って支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療導入後、薬剤師の薬管理を中心とし、職員は常に薬の意味、増減や変更の申し送りを把握しています。又、内服による変化や異常があった場合は、家族、医師、看護師等の医療機関に相談しています。体調に応じて家族と検討後、医師に薬の中止を提案することもあります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの趣味や得意なものを理解、把握し生活の中でできるものを見出し現実に出来るよう場所の提供や環境作りなど支援しています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	外出の希望があれば、職員が同行するようにしています。すぐに外出が難しい時には説明し、納得して頂くようにしています。又、季節ごとのドライブやイベント等外出の機会を毎月計画しています。イベントの際には、家族にも連絡し連携を図っています。	ホームは窪地に立地しており、周りは坂が多い。開設当時は頻繁に行われていた散歩も徐々に難しくなっているが、月に1度は外出の計画を組み、外に出る機会を作っている。ペランダにソファを置き、天気の良い日は日光浴をしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金はお預かりしています。買い物の際には入居者に支払ってもらうなど、状況に応じて支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は家族の意向を伺って行っています。年賀状や暑中見舞いなどは毎年書いて頂き、家族とのコミュニケーションを大切にしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天気によって照明の強弱、カーテンでの調整を図っています。テレビ音量もほぼ一定に保ち、職員が話をする際の声のトーン、速さに配慮しています。室内の装飾など入居者と相談しながら製作しています。	利用者が装飾係の職員と一緒にリビングに掛けるカレンダーや、季節ごとの飾り物を作っている。照明は白色電球で柔らかく、刺激が無いよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者が各居室を気軽に行き来し、エレベーター前共用スペースソファ等、思いおもいの場所で過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと家具、装飾など入居者が以前使い慣れ親しんだ物を使用して頂いています。新しく購入するものは、可能な限り本人と一緒に買い物へ行き、選んでもらうようにしています。	洋服ダンスなどは備え付けとなっている。家族の写真や思い思いの品を飾り、その人らしい部屋作りがされている。中には入居前と同じように畳に布団を敷いて生活している利用者も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや廊下の手すり、キッチンなど低めに設計されており、入居者が使いやすいようになっている等、安全と自立に配慮しています。居室は同じ造りの為、表札を分かりやすく手作りし、工夫しています。		